

目的 第1報・第2報における研究成果をもとに、これまで積み上げてきた「ライフサイクルモデルに基づく生涯家計データ」を用いて、生涯生活を通して消費構造を变化せしめる要因を各ライフステージ別・収入階級と分位別に検討し、その相関を法則的にとらえることを目的とした。

方法 分析対象データ：全国消費実態調査(59)静岡県分1,560世帯の調査原簿より、収入32項目、支出132項目の家計データより算定した「ライフステージ別・収入階級と分位別家計データ。」 分析方法：まず、要因の中から家族構成を排除するため、各ライフステージ別に、収入構造と支出構造について各費目間の相関分析を行ない、その結果をふまえて、次に、すべてのライフステージを通して、同様な相関分析を行なった。最後に、導びかれた結果をわかりやすくとらえるために、要因をグループ化し、そのグループ間の相関についても検討を行なった。

結果 これまで第1報・第2報においてとらえられていた、消費構造変動における主要因について、その法則性を数量的にとらえることにより、さらに明確に提示すること became possible.